

MRI 造影検査 説明文書

1 造影剤とは

造影剤は、MRI 検査において情報量を増やす（画像コントラストをつける）ために使用する検査用の薬剤です。通常、MRI 用の造影剤はガドリニウム製剤を使用します。

2 造影剤の使用目的

造影剤を用いることにより病気の部分や臓器の血流状態・血管の形態がわかり、画像診断において重要な情報となります。

3 造影剤の使用手法

通常、腕の静脈注射で造影剤を注入します。点滴など他の手段で造影剤を入れることもあります。

4 副作用について

副作用の発現時期は、造影剤を使用した直後から症状が出る場合がほとんどですが、まれに24時間以上経過してから症状が出る場合があります。

発現頻度は、軽微なものを含めて約1.2%といわれています。ほとんどは、吐き気・嘔吐・熱感・皮膚の異常（赤くなる・かゆみができる・むくむ・じんま疹）・くしゃみ・せき・倦怠感・めまいなどの軽いもので一過性です。しかし、まれに（約10万人に1人程度）、冷や汗・血圧低下・胸が苦しくなる・呼吸困難などの重い症状が起こることがあります。極めてまれですが死に至る報告もあります（約100万人に1人程度）。

また、造影剤が血管外に漏れ、注射部位が腫れたり炎症を起こすこともあります。基本的には、時間が経てば吸収されるので心配はいりませんが、漏れた量が非常に多い場合には処置が必要となることもあります。

5 副作用が生じた場合の対応

医師及び看護師等のスタッフが迅速に対応致します。軽微な副作用の場合は、経過観察のみで改善されることがあります。重い副作用の場合は、アレルギーを抑える薬などを投与したり、気管内挿管などの特別な緊急処置を要する場合があります。

6 NSF（腎性全身性線維症）と対応

NSFの症状は、皮膚の灼熱感・かゆみ・腫脹・硬化・関節硬直・呼吸困難です。MRI用造影剤投与から数日から数ヶ月後まで、時には数年かけて発症します。NSFを避けるために造影剤の投与に関して配慮が必要なのは、腎機能が低下している方です（eGFRが30ml/min/1.73m²未満）。2009年頃までの一部のガドリニウム造影剤を、腎機能が低下している方に投与した場合、NSFは概ね5%以下の発症率でした。現在は安全な造影剤になり、腎機能が低下している方においてもNSFの発症はほぼ見られなくなりましたが、関連学会のガイドラインでは、他の検査法で代替することが望ましいとされています。事前の採血結果にて、腎機能が低下している方へ造影検査を行う際は、その必要性に関して主治医だけでなく、放射線診断科医も含めて検討を行った上で検査を実施しています。